



あゝ信州よ山の国 誇りは高しアルペンの
峯に輝く雪を以て 希望は高いや更に
さらば歌はむ諸共に 若き血潮のゆくまゝに
あした夕べの友は山 山は我等の姿なる
山は我等の姿なる

思誠寮々歌

事業体制 これまでの経緯

今回の60周年事業について、これまでの経緯を時系列的に整理した。

2004年11月6日 学士山岳会総会

宮崎会長の方から60周年記念事業について会員の提案を期待するとの提起があったが、具体的な案までには至らなかった。

2005年11月5日 学士山岳会総会

ヒマラヤ登山で最もキャリアのあるOBの田辺治から「60周年記念ヒマラヤ登山計画書」が提出された。

「2000年のガネッシュII峰以来一時休止状態のヒマラヤ登山を復活し、内外で信州大学をアピールすると共に、「山と渓谷」、「岳人」を読んだ高校生が信州大学山岳会に入会するように仕向きたい。

- ①信州大学らしいニュース性のある山
7,000m級の未踏峰が望ましい
- ②現役が参加できかつ登頂できる可能性のある山：FIX使用の極地法登山
- ③アルパインクライマーの若手OBが満足する山：困難なルートのアльパインスタイル登山

これら3点を同時に満たす山域として、2001年と2003年に多くのピークが解禁になったペリヒマールが最も有

実行委員長 松尾 武久

望である。また、同山群は信州大学山岳会が最も情報を多く持っている山群なので、これを有効に活用する。時期としては2007年秋の予定とする」といった内容であった。

2006年11月3日 学士山岳会総会

田辺治はじめ海外登山の主力メンバーがネパールで登山活動を行っていることもあり、彼らの帰国後に検討することになった。2009年が60周年に当たるが、多少ずれても良いのではないかとの意見も出された。海外登山、トレッキングの他に、国内での集中登山なども提案された。年も明けた2007年1月26日に海外登山の主力推進者であった小川勝君が急逝したため、その遺志を受け継いで節目の年に登山隊を派遣しようとの会員の意識が纏まって60周年事業は一気に動き出すことになった。

2007年11月3日 学士山岳会総会

実行計画の骨子が決定され、実行委員会を結成して計画を具体化していくことになった。

・ペリヒマール7,000m峰クラスの縦走登山
概略 ヒムジュン (7,092m)～ヒムル

ン (7,126m) の縦走を目指す。

日程 2009年 9月上旬～11月中旬

登山期間 30～40日

予算 一人100万円位

この結果を受けて、2008年2月2日に行われた信州大学東京同窓会において、来賓の小宮山学長に口頭で大学の創立60周年事業への参加を申し入れ、大学側の快諾を得たのであった。ここから信州大学創立60周年事業の一つとして進むことになった。

2008年6月1日 第一回 実行委員会

実行委員会の組織、60周年記念事業の概要を決定した。

1. 実行委員会の組織 (最終組織)

実行委員長：松尾武久

事務局長：松下修也

事務局：藤松太一 松下修也

大木信介

委員：岡田要 小原武 小林盛男

葛西正美 大西道夫

寺田雅治 福与邦夫 川崎誠

森田稲吉郎 西郡光昭

板谷真人 柴田武明

宮崎敏孝 神野国昭

小宮良雄 佐藤邦彦

駒井浩 宇都宮昭義

小林元紀 杉本敏宏

向後利彦 扇能清 金子鉄男

井関芳郎 池内寛幸

大安徹雄 吉田秀樹

師田信人 田辺治 古賀聡

角谷道弘 中村幸典

内田健一 小久保陽介

山内哲文 花谷泰広

滝沢辰洋 松壽林太郎

江川信

2. 60周年記念事業の概要

I) 海外事業

1) 話し合いの結果、アンナプルナⅡ峰北東のペリヒマール山域を、60周年記念事業の主な活動地として設定することにした。当会が初登頂を果たしたギャジカン、ラトナチュリもこの山域に属し、我々としてはなじみ深い場所である。

2) 委員会としては、この山域内の最適な場所にベースキャンプを設け、各自の力量や希望に応じた複数の登山パーティーが、異なるスタイルで周囲の山岳に挑戦する、「サマーテント方式」が良いのではないかと考えている。ただし、これらの計画は参加者の力量、人数等により変更はある。

①ヒムジュンの初登攀、その後ヒムルンへの縦走

②ネムジュン (7,139m) 西壁のアルパインスタイルによる初登攀

③ヒムルンの既存ルートからの登攀

④同地域周辺のトレッキング、ピサンピーク等トレッキングピークへの登攀



⑤マルシャンディー川流域のネパール（ネパール）の文化、歴史の探訪

3) 時期については、2009年6月1日が信州大学創立60周年にあたることから、ネパールの登山適期である同年秋、すなわち2009年8月末～10月末までの期間を予定する。2009年春期～2010年夏期に、海外登山海外遠征も、可能な限り60周年記念事業に含めていく。

II) 国内事業

体力的、時間的に海外に行けない会員に対しては、上高地小梨平におけるサマーテントの開催期間を従来の10日間を延長し、広く参加を求め交流の輪を広げていく。

2008年8月17日 第二回実行委員会

60周年事業は、広く学士山岳会会員がその実力に応じて参加できる複数のチーム編成を行うという実行委員長私案をたたき台として規模、時期等について議論をおこなった。参加応募者が少ないためさらに期間を延長して、呼びかけを行っていくことになった。この議論を踏まえて8月27日 信州大学 小宮山学長、藤沢副学長を訪問し、実行委員会で決まった事業の概略を説明した。

2008年11月1日 第三回実行委員会 学士山岳会総会

海外事業については4チーム派遣、

現在活動中の一チームを事業に加える具体案を承認し、これについての学士山岳会会員に支援金の応募を行うことになった。

- ・第一チーム ヒムジュンの初登頂を狙う。その後はヒムルンの縦走又はネムジュン西壁のアルパインスタイルによる初登頂
- ・第二チーム ピサンピーク(6,091m)又はチュルーファースト(6,038m)の登攀
- ・第三チーム トレッキング(アンナプルナ山群)
- ・第四チーム 小川勝さん追悼トレッキング
- ・第五チーム カンテガ(6,783m)北壁(活動中)

2008年11月6日 日本山岳会へ応募

第一チーム ペリヒマール登山隊は日本山岳会の「海外登山基金助成登山計画」に十分に該当する登山隊であると考え応募をすることにした。そして2009年2月23日 助成金30万円の交付を受けた。

2009年2月8日 第四回実行委員会

海外事業の中で行う学術調査計画・顧問先生訪問の報告を行った。

1) 鈴木啓助・理学部教授

200ccボトルで水・氷雪を持ち帰り、アンナプルナ山域、ペリヒマール山域の水質特性・水の循環機構解明の

現地資料を提供する。

2) 能勢博・医学部教授

小型運動量計測器『熟大メイト』を携帯し、脈拍や消費カロリーなどのデータを収集する。また、各自の体調日誌の毎日記録もデータとなる。

3) 留守本部・緊急時の対応について
留守本部を扇能清とすることに決定

4) 小川山岳基金の適用については下記のとおりとすることが宮崎会長より報告を行った。

第一チーム：参加費（個人負担）を15万円／1名とし、残額を助成する

第二チーム：各隊員に20万円の補助金を助成する（カンテガ隊と同額）

第三チーム：全体装備として10～20万円程度を助成する

第四チーム：チームに対して助成を行う。

2009年4月5日 第五回実行委員会

海外事業の総合計画書（案）を了承し、計画が固まった。隊員募集も締め切られた。

1隊（ペリヒマール登山隊）7名

2隊（マナンヒマール登山隊）6名

3隊（アンナプルナ山群一周隊）19名

4隊（追悼トレッキング）32名

国内事業実施計画

①田辺治講演会、写真展の開催

写真展：6月9日（火）～14日（日）

講演会：6月13日（土）16：00～18：00

②サマーテント開催

7月31日（金）～16日（日）の16日間（昨年は11日間）

③山と森の学校（森田）

デジカメ教室、高山植物観察会、事故を起こさない中高年登山などの企画について説明があった。

2009年5月31日 第六回実行委員会

最終の60周年記念事業総合計画書を承認した。その後、各隊よりトレーニング合宿、計画などの報告があった。

第一チーム（田辺）：

4月14～15日、伊那にて打ち合わせ。

6月23～25日、立山（文登研）でトレーニング。

第二チーム（金子）：

4月26～29日、岳沢で合宿。

7月4～6日、富士山で高所順応合宿。

剣岳にて夏合宿。

第三チーム（松尾）：

5月28～31日、徳本峠・上高地・S字ルンゼ・乗鞍合宿。

7月10～11日、富士山で高所順応合宿。

情報・通信体制の活動報告と今後の方針について、情報連絡チーム（チーム長：駒井）を新たに立ち上げて、情報・通信体制を整備する。6月14日に東京にて第一回の打ち合わせ。衛星携



帯、インターネット、トランシーバーを利用した情報ネットワークを試みる。現地オペレーターに花谷裕子隊員を起用する。

2009年8月22日

第七回実行委員会・壮行会

各チームの計画の進捗状況を最終確認し、事業の成功を誓い合った。

第二チームと第三チームは大学の体育館で、能勢先生（医学部教授）の熟大メイトプロジェクトのデータ収集として、体力測定、血液検査を行った。

隊員家族会を開催し、遠征のリスクについて田辺隊長から説明を行った。また、午後5時から家族も含めて壮行会をホテルブエナビスタ（3Fグランデ）で開催した。参加者は96名であった。

翌日8月23日第一チームは松本にて装備の梱包・発送作業を行った。

60周年記念事業総合計画最終案

7回に及ぶ実行委員会の議論の結果、最終計画の骨格は下記のとおりとなった。

海外事業の部

総隊長 松尾武久
 （60周年実行委員長）
 副総隊長 宮崎敏孝
 （信州大学学士山岳会会長）

☆留守本部 扇能清 松下修也
 ☆情報連絡チーム

チーム長 駒井浩
 金子鉄男 花谷裕子
 小林元紀 宇都宮昭義
 菊池宮人

☆記録作成チーム

チーム長 滝沢辰洋
 大木信介 駒井浩
 大安徹雄 井関芳郎

☆総合会計チーム

チーム長 宮崎敏孝 松下修也

第一チーム ベリヒマール登山隊 8名

隊長 田辺治

副隊長 滝沢辰洋

隊員 藤松太一 角谷道弘 花谷泰広
 大木信介 江川信 花谷裕子

第二チーム マナンヒマール登山隊5名

隊長 小林元紀

隊員 神野国昭 佐藤邦彦 駒井 浩
 山内哲文

第三チーム アンナプルナ山群一周ト

レッキング隊 19名

隊長 松尾武久

副隊長 寺田雅治 宇都宮昭義

隊員 大安徹雄 板谷真人
 柴田武明 小原武 葛西正美

川崎誠 奥嶋啓志 杉本敏宏

河原洋 坂本貴男 石山駿

大鳥いよ子 滝川正子

池内寛幸 大沼淳一 大沼章子

（ジヨムソンから早期帰国予定3名）

第四チーム 故小川勝 追悼トレッキング隊 31名

隊長 宮崎敏孝

隊員 西郡光昭 佐藤敦子

宮崎小里 向後利彦 向後博子

今関貞夫 米倉幸夫 井関芳郎

笠原敬一 金子鉄男 渡部光則

菊池宮人 若島郁夫 若島美代

岩津よしゑ 山田典子

関根恵子 川上正夫 板東昭

杉本則夫 難波良平 小林正明

長谷川和男 馬場健治

馬場温子 八坂浩睦 佐藤利和

佐藤ニナ 向後元彦

向後紀代美

第五チーム カンテガ北壁ダイレクト

登山隊 2名

隊長 横山勝丘

隊員 佐藤祐樹

国内事業の部

花の山旅、高山植物観察教室

リーダー 森田稻吉郎

日時 7月19日(日)～20日(月)

八ヶ岳硫黄岳ジョージ沢右俣付近

ローツエ南壁写真展と講演会『私のヒマラヤ』

リーダー 田辺治

日時 写真展 6月9日(火)～14日(日)

講演会 6月13日(土)

共催団体「田辺治さんとヒマラヤへ行きたい会」代表 高橋正雄

協賛団体 伊那食品株式会社

上高地サマーテント事業

リーダー 古賀聡

期間 8月1日(土)～16日(日)

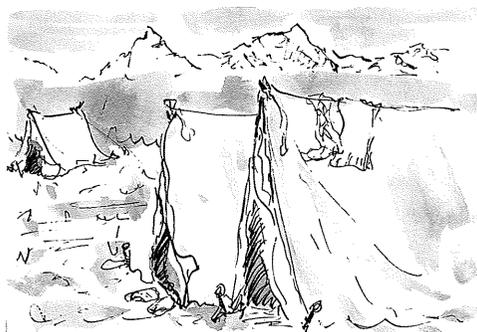
16日間

信州大学山岳会・学士山岳会ホームページの充実

リーダー 宇都宮昭義

ホームページアドレス <http://arayo.jp/>

jp/



留守本部として

扇能 清

海外事業の留守本部は、①遠征隊の活動状況の報告 ②緊急時の対応として、隊との連絡・情報収集、国内関係者特に留守家族への連絡が、主な仕事である。

今回の60周年記念・海外事業では、情報通信の新しい試みとして通信衛星を利用したインターネット、携帯電話の活用で、①については国内情報担当から遠征隊ブログとして配信され、画像を伴った報告が頻繁に届けられ、その威力が大いに発揮された。②については、帰国直後の寺田雅治さんの急死は痛恨事ではあったが、結果として留守本部の出番がなかったことを喜ぶたい。

緊急時の対応について

連絡システムの周知徹底を図り緊急連絡は、ネパール所轄機関への配慮も念頭

に置き、ネパール側をコスモトレック、国内は留守本部を窓口として一本化する体制として、情報の錯そう、混乱を避けることに留意した。

今回の60周年記念・海外事業の参加者は、第1隊から第4隊までを合わせ64名と多く、緊急連絡は電話だけの対応では大変になると予想でき、電子メールと併用することにした。電子メールアドレス(PC 携帯メール)を加えた隊員留守宅連絡先リストを作成し備えた。

遭難発生など緊急連絡が必要な場合、大学、外務省、実行委員会、当事者留守家族など緊密な連絡を必要とする時は電話で行い、第一報として安否情報などで事が足り、詳細な双方向の連絡の必要のない人たちへは、電子メールで連絡することを基本とした。

情報通信システム報告

金子 鉄男

1 はじめに

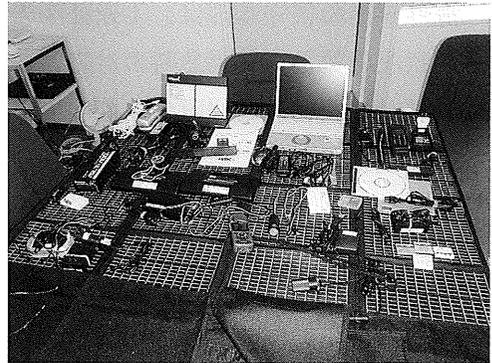
出発4ヶ月前の5月中旬に松尾委員長から、登山活動情報をリアルタイムに日本国内に配信するシステム構築の指示があり、花谷泰広・金子鉄男でシステム構築、購入・レンタル手続きを行った。登山隊からの配信は衛星電話と高速データ通信機器を用いることにした。

海外情報の国内配信は遠征隊ブログを立ち上げ学士山岳会メーリングリスト加入者及び登山隊家族に配信することにした。

2 レンタル品

遠征隊登山隊・ODA活動等に多くのレンタル実績のある(株)ウエック・トレック社と契約した。契約品目は、衛星電話（スラーヤ）3台、高速データ通信機器（ビーガン）2台と登山中の電源供給としてソーラパネル2枚、リチウム充電電池4個を各チームの登山（活動）期間にあわせてレンタルした。各チームの契約は、第1チームが、スラーヤ1台、ビーガン1台、ソーラパネル1枚、リチウム充電電池2個を69日間借用した。

第2チームのレンタル品は、第1チームと同量であるが借用日数は44日間



であった。第3チームは、ソーラ充電は行わないロッジで充電を行うスラーヤ1台のみで、28日間借用した。これらのレンタル代は同社と花谷泰広（ガイド）の関係で半額近い割引を適用してもらい39万円であった。また、通信機器には衛星使用料金が加算されるが、以上の電話・データ通信費は、概略39万円であった。写真は第2チームの情報機器である。

3 購入品

高速データ通信機を扱うにはパソコンが必要であるが、レンタル品目にはなく各登山隊の手配品であった。2台の軽量でタフな機種を2台購入した。その他、デジタルカメラを3台、トランシーバーを8台（第1・2隊が3台、第3隊が2台）、購入した。登山隊はトランシーバーの電池はパワー不足の充電電池を使わず、アメリカ製のリチウ



ム単3乾電池（Energizer）を220本購入し対応した。

4 気象

データ通信ができることで、高所気象予報を受けることができた。今回、第1チームのネムジュンの強風待機、第2チームのチュルーの緊急登山中止・下山指示など、的確な情報を(株)メテオテック・ラボの猪熊予報士を受けることができた。登山活動期間1ヶ月の予報を21万円とこれも半額近い金額で契約してもらった。

5 国内配信

登山隊からの、衛星電話・データ通信を日本国内に配信する仕事は、松寄林太郎が担当した。彼は信濃毎日新聞社の記者でもあり、現地より衛星電話・データ通信で配信された情報を即時に遠征ブログ<http://sac60th.blog91.fc2.com/>に記載し多いときで1日1,000名の読者を楽しませた。

6 通信情報費

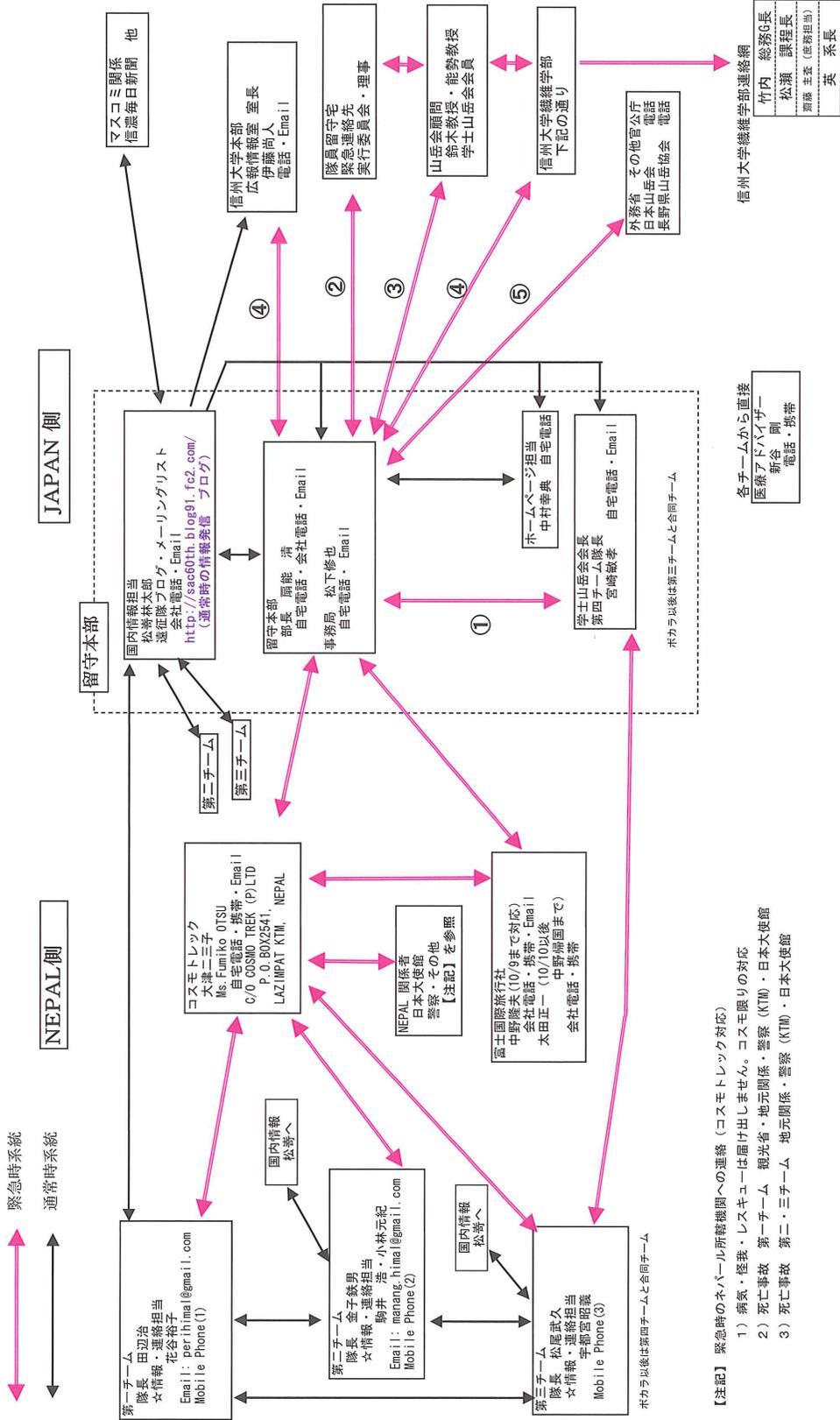
以下に今回の通信情報費を記載する。

情報・通信費総括表（最終）

平成22年4月22日

NO	費目 (1)	費目 (2)	第1チーム	第2チーム	第3チーム	合計
			69日	44日	28日	使用期間
1	購入品	パソコン関連 (2台他)	196,317	198,477		394,794
		トランシーバー (8台)	162,765	116,931	70,476	350,172
		公式カメラ (3台)	66,723	49,129	39,326	155,177
		気象計測器ケストレル4000		45,250		45,250
		消耗品など	16,851	4,163	740	21,754
		販売益 (パソコン1台、カメラ3台)	-10,000	-50,000	-10,000	-70,000
		小計 (1)	432,656	363,950	100,542	897,147
2	レンタル品	スラヤーSG-2520	46,050	33,160	18,900	98,110
		インマールサットBGAN(ビギャン)	95,000	67,200		162,200
		ソーラパネルパワーフィルム60W	31,900	18,620		50,520
		リチウムイオンバッテリー	31,900	18,620		50,520
		器材保険料	15,540	14,670		30,210
		小計 (2)	220,390	152,270	18,900	391,560
3	衛星通信費	スラヤーSG-2520	25,500	92,600	66,300	184,400
		インマールサットBGAN(ビギャン)	119,940	84,675		204,615
		小計 (3)	145,440	177,275	66,300	389,015
4	高所気象予報費	(株)メテオテック・ラボ1ヶ月	210,000			210,000
		小計 (4)	210,000			210,000
合 計			1,008,486	693,495	185,742	1,887,722

60周年記念事業 海外事業情報連絡系統図



海外事業全体収支表

部門別							備考
本部費用、通信連絡費		第一チーム	第二チーム	第三チーム	第四チーム	合計	
通信・連絡費	機器購入費用	432,656	363,950	100,542		897,148	パソコン トランシーバー等 スラッシャー イン マールサット等 第四チームへ一括 計上 高所テント・コン ロ他
	レンタル費用	220,390	152,270	18,900		391,560	
	衛星通信費	145,440	177,275	66,300		389,015	
気象データー		210,000				210,000	
壮行会					99,767	99,767	
持帰装備現役へ			236,251			236,251	
合計①		1,008,486	929,746	185,742	99,767	2,223,741	
各チーム費用							
国内費	渡航費	877,240	625,000				第三チーム フル参加 16名 672万 早期帰国 3名 104万 ボカラから 2名 52万 第四チーム フル参加 30名 807万 途中参加 1名
	輸送費EMS	159,000	157,044				
	装備費	507,011	39,018				
	食料費	45,809	115,247				
	医薬品費	48,770					
	保険費	412,032	271,190				
	通信・事務費 雑費	6,475 24,959					
合計②		2,081,296	1,207,499				
海外費 1 \$ = 98円 1RS = 1.3円	登山料	289,100					
	エージェンツ料	294,000	2,005,244				
	リエゾンオフィサー	333,200					
	シェルパ・ポーター費	341,900					
	キャラバン費	880,209					
	装備費	444,570					
	食料費	381,172					
	滞在費	213,347					
	ヴィザ	20,821					
	現地スタッフ保険料 雑費	62,062 884,976					
合計③		4,145,357	2,005,244				
各チーム合計②+③=④		6,226,653	3,212,743	8,275,000	8,070,000	25,784,396	
総合計①+④ 本部費加算		7,235,139	4,142,489	8,460,742	8,169,767	28,008,137	
個人負担		1,200,000	1,800,000	8,275,000	8,070,000	19,345,000	
小川山岳基金拠出 (団体補助)		1,008,486	929,746	185,742	99,767	2,223,741	
日本山岳会海外助成金		300,000	0	0	0	300,000	
小川山岳基金拠出 (個人補助)		4,726,653	1,412,743	0	0	6,139,396	
人数		8名	5名	19名	31名	63名	

学士山岳会 60周年記念事業

8名

第一チーム の日程	第一チーム (ペリヒマール登山隊)	
	共同日程	
	(A)本隊 (1次) 日程	(B)早期帰国または2次日程
1	9/6	日 日本=ソウル (大韓航空利用)
2	9/7	月 ソウル=カトマンズ
3	9/8	火 カトマンズ、登山準備
4	9/9	水 カトマンズ、登山準備
5	9/10	木 カトマンズ、登山準備
6	9/11	金 カトマンズ (専用車)=プルブレ(840m)
7	9/12	土 プルブレ/ジャガット(1,300m)
8	9/13	日 ジャガット/ダラパニ(1,860m)
9	9/14	月 ダラパニ/コト(2,600m)
10	9/15	火 コト/メタ (3,570m)
11	9/16	水 メタ/キャン(3,800m)
12	9/17	木 キャン/プーガオン(4,080m)
13	9/18	金 プーガオン/BC(4,800m) 田辺・花谷・大木
14	9/19	土 プーガオン/BC(4,800m) 全員
15	9/20	日 I期登攀 BCにてブジャ
16	9/21	月 モレーン偵察、食料・装備整理
17	9/22	火 食料・装備整理
18	9/23	水 BC-C1(5560)-BC C1建設 BC-(5200)-BC
19	9/24	木 BC-C1(5560)-BC BC-(5300)-BC
20	9/25	金 休養
21	9/26	土 BC-C1(5560) BC-C1(5,560m)-BC
22	9/27	日 C1-(6,000m)-BC BC-C1(5,560m)-BC
23	9/28	月 休養
24	9/29	火 BC-C1(5,560m) 休養
25	9/30	水 C1-C2(6,250m)-C1 BC-C1(5,560m)
26	10/1	木 C1-BC C1-(6,000m)-BC
27	10/2	金 休養
28	10/3	土 荒天待機
29	10/4	日 荒天待機
30	10/5	月 荒天待機(大雪)
31	10/6	火 荒天待機(大雪)
32	10/7	水 荒天待機(大雪)
33	10/8	木 待機(BC整備)
34	10/9	金 BC-C1-BC C1 復旧 待機
35	10/10	土 休養 待機
36	10/11	日 BC-C1(5,560m) 待機
37	10/12	月 C1-(6,000m)-C1 角谷BC入り
38	10/13	火 C1-C2(6,250m)C2建設 38 BC-C12隊BC入り
39	10/14	水 C2-PEAK(7,126m)-C1 39 C1-C2
40	10/15	木 C1-BC 40 C2-PEAK(7,127m)-(5,800m)
41	10/16	金 休養 41 (5,800m)-BC2隊他帰路
42	10/17	土 II期登攀BC 42 プーガオン/メタ
43	10/18	日 BC 43 メタ/コト
44	10/19	月 ネムジュン偵察 44 コト/タール
45	10/20	火 強風待機 45 タール/シャンゲ
46	10/21	水 強風待機 46 シャンゲ/プルブレ
47	10/22	木 強風待機 47 プルブレ/カトマンズ
48	10/23	金 強風待機 48 カトマンズ
49	10/24	土 強風待機 49 カトマンズ
50	10/25	日 強風待機 50 カトマンズ
51	10/26	月 強風待機 51 カトマンズ=ソウル
52	10/27	火 BC-C1(5,300m) 52 ソウル=日本
53	10/28	水 C1-C2(6,000m) 2名(滝沢・江川)
54	10/29	木 C2-C3(6,840m)
55	10/30	金 C3-PEAK(7,139m)-C3
56	10/31	土 C3-C2(撤収)-BC
57	11/1	日 休養・撤収準備
58	11/2	月 ヒムルンBC/プーガオン
59	11/3	火 プーガオン/メタ
60	11/4	水 メタ/コト
61	11/5	木 コト/ダラパニ
62	11/6	金 ダラパニ/ジャガット
63	11/7	土 ジャガット/プルブレ
64	11/8	日 プルブレ/カトマンズ
65	11/9	月 カトマンズ
66	11/10	火 カトマンズ
67	11/11	水 カトマンズ
68	11/12	木 カトマンズ
69	11/13	金 カトマンズ/ソウル
70	11/14	土 ソウル/日本(午後)

5名

第二チーム の日程	第二チーム (ピサン、チュル-登山隊)	
	共同日程	
	(C)ヒムルン支援日程	(D)早期帰国日程
1	9/13	日 日本=香港=カトマンズ(CX/KA利用)
2	9/14	月 カトマンズ、登山準備(梱包)
3	9/15	火 カトマンズ(専用車)=プルブレ(840m)
4	9/16	水 プルブレ/シャンゲ(1,100m)
5	9/17	木 シャンゲ/タール(1,700m)
6	9/18	金 タール/ダナキュ(2,300m)
7	9/19	土 ダナキュ/コト(2,600m)
8	9/20	日 コト/ピサン下村(3,200m)
9	9/21	月 ピサンBC直下往復 高度順化(4,200m)
10	9/22	火 ピサン下村休養
11	9/23	水 登山期間 ピサン下村-ピサンBC(4,300m)高度順化(4,500m)
12	9/24	木 登山期間 ピサンBC高度順化(4,800~5,100m)
13	9/25	金 登山期間 BC休養
14	9/26	土 登山期間 BC-C1(4,800m) 高度順化(5,100m)
15	9/27	日 登山期間 C1-C2(5,400m)
16	9/28	月 登山期間 C2-PEAK(6,091m)-C2
17	9/29	火 登山期間 C2-C1-BC-ピサン下村(第2隊・第3隊BC集結)
18	9/30	水 ピサン下村-アンナII BC(慰霊祭)-ピサン下村
19	10/1	木 ピサン下村-フムデ(3,280m)
20	10/2	金 登山期間 フムデ-ヤクカルカ(3,700m)
21	10/3	土 登山期間 ヤクカルカ-BC(4,800m)
22	10/4	日 登山期間 BC-C1(5,400m)
23	10/5	月 登山期間 天候待機FIXロープ工作
24	10/6	火 登山期間 天候悪化降雪の中下山C1-BC
25	10/7	水 登山期間 天候悪化降雪の中下山BC撤収-フムデ
26	10/8	木 フムデ-コト(2,600m)
27	10/9	金 コト 天候待機
28	10/10	土 コト/メタ(3,560m)
29	10/11	日 メタ/キャン(3,800m)
30	10/12	月 キャン/プーガオン(4,080m)
31	10/13	火 プーガオン/ヒムルンBC(4,800m)
32	10/14	水 ヒムルンBC
33	10/15	木 ヒムルンBC
34	10/16	金 ヒムルンBC2隊他帰路 プーガオン
35	10/17	土 プーガオン/メタ
36	10/18	日 メタ/コト
37	10/19	月 コト/タール
38	10/20	火 タール/シャンゲ
39	10/21	水 シャンゲ/プルブレ
40	10/22	木 プルブレ/カトマンズ
41	10/23	金 カトマンズ
42	10/24	土 カトマンズ
43	10/25	日 カトマンズ/香港
44	10/26	月 香港/日本(午後)

2名(佐藤・山内)

参加者名

(A) 第一チーム本隊	田辺治、藤松太一、角谷道弘、花谷泰広、大木信介、花谷裕子
(B) 第一チーム早期帰国隊	滝沢辰洋、江川信
(C) 第二チーム本隊	駒井浩、神野国昭、小林元紀
(D) 第二チーム早期帰国隊	佐藤邦彦、山内哲文
(E) 第三チーム本隊	松尾武久、寺田雅治、宇都宮昭義、大安徹雄、板谷真人、柴田武明、小原武、葛西正美、川崎誠、奥嶋啓志、河原洋、杉本敏宏、坂本貴男、石山駿、大島いよ子、滝川正子
(F) 第三チーム早期帰国隊	池内寛幸、大沼淳一・章子
(G) 第四チーム本隊	宮崎敏孝・小里、西郡光昭、岩津よしゑ、向後利彦・博子、今関貞夫、米倉幸夫、井関芳郎、笠原敬一、渡部光則、菊池宮人、佐藤敦子、難波良平、若島郁夫・美代、川上正夫、小林正明、山田典子、関根恵子、板東昭、杉本則夫、馬場健治・温子、佐藤利和・二ナ、八坂浩睦、向後元彦・紀代美、田辺ともみ(現地参加) ※米倉(現地解散)
(H) 第四チーム残留隊	長谷川和男・金子鉄男

全チーム日程一覽表

9 September							10 October							11 November							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4 5					1	2	3			1	2	③	4	5	6 7
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30						

19名		第三チーム (アンナブルナサーキット隊)	
第三チームの日程		(E) 共同日程	(F) 早期帰国日程
1	9/22	火	日本=香港=カトマンズ (CX・KA 利用)
2	9/23	水	カトマンズ(専用車)=ベシサハール(796m)
3	9/24	木	ベシサハール/ナディ上村(930m)
4	9/25	金	ナディ上村/シャガット(1,300m)
5	9/26	土	シャガット/ダラバニ(1,860m)
6	9/27	日	ダラバニ/チャーメ (2,760m)
7	9/28	月	チャーメ/ピサン下村(3,200m)
8	9/29	火	ピサン下村/ピサンBC(4,200m) 往復
9	9/30	水	ピサン下村/アンナII BC(3,500m)往復、BCにて故佐藤氏慰霊祭
10	10/1	木	ピサン下村/マナン(3,540m)
11	10/2	金	マナン/レダール(4,200m)
12	10/3	土	レダール/ハイキャンプ(4,883m)
13	10/4	日	ハイキャンプ/トロノラ/ムクチナート(3,800m)
14	10/5	月	ムクチナート/ジョムソン(2,710m) (池内・大沼夫妻)
15	10/6	火	ジョムソン/マルファ(2,670m) ジョムソン=ボカラ
16	10/7	水	マルファ大雨待機(ロッジ移動) ボカラ=KTM
17	10/8	木	マルファ(車28km)/(徒歩9km)タトバニ(1,190m) 池内KTM=香港
18	10/9	金	タトバニ/チトレ(2,390m) 池内帰国、大沼夫妻香港
19	10/10	土	チトレ/ゴラバニ(2,750m) 大沼夫妻香港=日本
20	10/11	日	ゴラバニ/ブーンヒル/ゴラバニ/ヒレ(1,524m)
21	10/12	月	ヒレ/ナヤブル(1,070m専用)=ボカラ(900m)
22	10/13	火	ボカラ周辺ハイキング(妙法山ストウバ周辺へ)
23	10/14	水	ボカラ=ジュゲディ村(小川勝追悼式60名) =チトワン
24	10/15	木	チトワン=コダワリ(予定変更) カトマンズ市内観光
25	10/16	金	ナガルコットの丘、コダワリ(予定変更)
26	10/17	土	コダワリ=カトマンズ(パタン観光 さよならパーティー)
27	10/18	日	カトマンズ=香港
28	10/19	月	香港(解散式)=日本(午後)

16名

32名+(TC1名)=33名		第四チーム (小川勝追悼隊)	
第四チームの日程		(G) 共同日程	(H) 残留日程
1	10/11	日	日本=香港=カトマンズ (CX・KA 利用)
2	10/12	月	カトマンズ/ボカラ (第三チームと合流)
3	10/13	火	ボカラ周辺ハイキング(妙法山ストウバ周辺へ)
4	10/14	水	ボカラ=ジュゲディ村(小川勝追悼式60名) =チトワン
5	10/15	木	チトワン=コダワリ(予定変更) カトマンズ市内観光
6	10/16	金	ナガルコットの丘、コダワリ(予定変更)
7	10/17	土	コダワリ=カトマンズ(パタン観光 さよならパーティー)
8	10/18	日	カトマンズ=香港
9	10/19	月	香港(解散式)=日本(午後)
10	10/20	火	(寺田氏通夜式)
11	10/21	水	(寺田氏葬儀)
12	10/22	木	
13	10/23	金	
14	10/24	土	長谷川氏
15	10/25	日	(夜) 香港へ
16	10/26	月	(長谷川帰国) 香港=日本(午後)

31名+1名(現地参加)=32名 (1名)

第二~第四チームの総参加人数 52名(+TC1名)

ご後援者（順不同）

下記の皆様から多大なご支援を頂きました。厚くお礼申し上げます。有難うございました。

〈個人〉

中込 弥男・加藤 喜章・茅野 文利・武藤 一郎・川治 晴彦・板谷 真人
主計 勤也・松本 穂高・奥秋 仁・池内 寛幸・長島 妙子・加藤 正幸
中邨 康文・奥嶋 啓志・駒井 浩・柴田 武明・荒井 富夫・岡田 要
宮崎 敏孝・新谷 剛・佐藤 邦彦・下川路美知代・西阪 孚
川崎 誠・市川 豊・浦山 大介・小宮 良雄・中村 和夫・矢野想之助
松尾 武久・河西 貴史・神野 国昭・真野 孝一・大島いよ子・山岸 計良
久田 千成・下田 章・川添 信・小林 実・藤松 太一・橋口 徹
師田 信人・牛山 寿宏・山田 和彦・花岡 利夫・長谷川聡貞・丸山 岳人
金子 鉄男・岩津よしゑ・中村 幸典・小川 靖子・大村 道雄・山下 泰弘
神山 啓治・吉沢 範子・片山 博彦・酒井 信一・望月 映洲・寺田 恵子
小林 詢・高橋 雄治・野村 昌男・吉田 秀樹・高橋 作夫・小根田一郎
木下 哲雄・小林 盛男・中井 学・御子柴明子・渡邊せつ子・矢野コトエ
小林 常男・遠藤 昭二

〈団体〉

日本山岳会・株式会社住友ビジネス・伊那食品工業株式会社・林撚糸株式会社
日本毛織株式会社・信州ハム株式会社・株式会社ミヤザワフーズ・安田譲医院
山本光学株式会社・株式会社サクセン・信州大学医学部附属病院・新谷クリニック
なのはなクリニック・報告No. 2編集委員会・信州大学学士山岳会小川勝山岳基金
株式会社日さく海外事業部・日さくネパール・コスモトレック
株式会社富士国際旅行社